

2020年6月4日

## 第6期(2018-2019) FD 推進委員会 最終活動報告

FD 推進委員会

【活動経過】 ※第1期～第3期までは記載省略

### 第4期(2014年度～2015年度)

2014年4月	第4期 重点的課題 1. 授業改善のための学生アンケートの改善 2. 授業改善のための学生アンケートの集計結果の公表および活用
2014年7～8月	授業改善のための学生アンケート(前期科目) 全学実施
2014年11月	第5回よりよい学びのための学生懇話会(学部生対象) 実施
2014年11月	FD教職員ワークショップ実施(「白百合女子大学における学修支援 Part II ～卒業するまでに身につけてもらいたいこと～」)
2015年1月	授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目) 全学実施
2015年2月	2011-2013「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表 2014 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2015年6月	2014 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2015年7～8月	授業改善のための学生アンケート(前期科目) 全学実施
2015年10月	第4回よりよい学びのための院生懇話会(大学院生対象・全専攻合同) 実施
2015年10月	FD教職員ワークショップ実施(「白百合女子大学における学修支援 Part III ～アクティブラーニング～」全2回)
2016年1月	2015 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
2016年1月	授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目) 全学実施
2016年6月	2015 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表

### 第5期(2016年度～2017年度)

2016年4月	第5期 重点的課題 授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
2016年7～8月	授業改善のための学生アンケート(前期科目) 全学実施 授業改善のための学生アンケートについての教員アンケート全学実施
2016年11月	第6回よりよい学びのための学生懇話会(学部生対象) 実施
2017年1月	授業改善のための学生アンケート(通年・後期科目) 全学実施
2017年6月	2016 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表 2016 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表 FD教職員ワークショップ実施「授業運営の現状と課題について」*1

- 2017年7月 授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
- 2017年8～10月 2017 前期授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業表彰 および  
顕彰授業における工夫 Web 公表 \*2
- 2017年10月 第5回よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施
- 2018年1月 授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
- 2018年4～5月 2017 後期授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業表彰 お  
よび 顕彰授業における工夫 Web 公表 \*2

---

平成 29 年度私立大学等改革総合支援事業 タイプ 1 教育の質的転換

\*1 申請項目 10 『FD 実施のための組織の設置及び教員の参加状況』 対応

\*2 申請項目 8 『学生による授業評価結果の活用』 対応

## 第 6 期（2018 年度～2019 年度）

- 2018年4月 第 6 期 重点的課題  
授業改善のための学生アンケートの再点検・再検討
- 2018年7月 FD 講演会実施（「大学生の発達障害とその対応方法について」五十嵐一枝先生）
- 2018年9月 2017 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表  
2017 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
- 2018年7～8月 授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施
- 2018年10月 2018 前期授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業表彰 および  
顕彰授業における工夫 Web 公表  
第 7 回よりよい学びのための学生懇話会（学部生対象）実施
- 2019年1月 授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
- 2019年4～5月 2018 後期授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業表彰 お  
よび 顕彰授業における工夫 Web 公表
- 2019年7月 授業改善のための学生アンケート（前期科目）全学実施  
FD 教職員講演会実施「アクティブ・ラーニングへの取り組みについて」\*1
- 2019年10月 第 6 回よりよい学びのための院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）実施  
2018 前期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表  
2018 後期「授業改善のための学生アンケート」結果報告書 Web 公表
- 2019年12月 授業改善のための学生アンケート（前期科目）顕彰授業 および 顕彰授業にお  
ける工夫 Web 公表 \*2
- 2020年1月 授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）全学実施
- 2020年6月 授業改善のための学生アンケート（通年・後期科目）顕彰授業 および 顕彰授  
業における工夫 Web 公表 \*2

---

\*1、2 令和元年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

## 【2019年度 活動報告～第6期2年目～】

### I. 授業改善のための学生アンケート（学部／大学院）

経年比較のため前年度と同じ質問項目、形態で実施し、集計結果は各授業担当教員へフィードバックした。各科もしくは各関連部署へ案件をつなぐことで改善への具体的な取り組みを促した。さらに、2017年度よりアンケート結果を活用した顕彰制度を継続しているが、評価の高い授業の優れた点を全学的に共有することで、個々の授業への具体的なヒントを提供するとともによりよい授業を作りあげる機運を高めていくことになった。

第6期重点的課題であるアンケート自体の再点検・再検討については、学長諮問『「授業改善のための学生アンケート」結果の活用について』（2019年4月22日付）の内容も含め検討し最終的に『「授業改善のための学生アンケート」結果の活用について（答申）』（2019年11月7日付）を学長へ提出した。詳細は添付資料1、2の通り。

前期 2019年7月16日（火）～2019年8月5日（月） 実施科目数：527科目

後期 2020年1月9日（木）～2020年1月29日（水） 実施科目数：781科目

\* 令和元年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

### II. よりよい学びのための大学院生懇話会（大学院生対象・全専攻合同）

「学部生対象」と「大学院生対象」を隔年実施しており、2019年度は「大学院生対象」でテーマは具体的に設けず実施した。研究のための環境や、将来のことなど、専攻を超えた院生同士の交流の場としても貴重な機会となった。なお、日曜日の院生研究室利用については学生の意見を「大学院生の研究室利用に関する検討のお願い」として学長へ提出した。詳細は添付資料3の通り。

実施日時 2019年10月15日（火）12:10～13:15

参加者数 大学院生8名、教員2名、職員3名

### III. FD教職員講演会

「授業改善のための学生アンケート」顕彰制度が2017年度に導入されて以来、すべての回で受賞しているやたみほ先生、大貫麻美先生の講演会を開催し、後半はグループに分かれ意見交換や情報共有を行った。

テーマ：アクティブ・ラーニングへの取り組み

日時：2019年7月11日（木）17:00～18:00

参加者数：87名（専任教員78名、職員9名）

※専任教員参加率100%（欠席者対応含む／専任教員）

\* 令和元年度 教育の質に係る客観的指標調査票 に対応

以上

## 「授業改善のための学生アンケート」2019 年度前期 顕彰授業について

2019 年 10 月 17 日

白百合女子大学 FD 推進委員会

2010 年度より全学で実施してまいりました「授業改善のための学生アンケート」に、2017 年度より集計結果を活用した顕彰制度が導入されることになりました。アンケートの結果は、これまでも個々の授業改善に役立てられてきましたが、今後は高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有してまいります。

2019 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業についてのインタビュー等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

### 2019 年度前期

#### 少人数部門

月 3 前 「教職論 (小)」 牧口 典子 (人間総合学部初等教育学科)

#### 多人数部門

火 2 前 「アニメーション制作 I」 やた みほ (人間総合学部児童文化学科)

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的 (実施要領より抜粋)

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

##### [実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 9 項目 (項目毎の平均点の合計/45 点満点) とする。
  - Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
  - Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
  - Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
  - Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
  - Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
  - Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
  - Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。
  - Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
  - Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- ④ 顕彰部門は、「少人数部門」(回答者数 6~25 名)と「多人数部門」(回答者数 26 名以上)の 2 部門とする。
- ⑤ 顕彰対象は各部門第 1 位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業は大学 Web サイトにて公表する。

##### [実施主体]

白百合女子大学 FD 推進委員会

# 「授業改善のための学生アンケート」2019年度後期 顕彰授業について

2020年5月21日

白百合女子大学 FD 推進委員会

2010年度より全学で実施してまいりました「授業改善のための学生アンケート」に、2017年度より集計結果を活用した顕彰制度が導入されることになりました。アンケートの結果は、これまでも個々の授業改善に役立てられてきましたが、今後は高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有してまいります。

2019年度後期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業についてのインタビュー等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

## 2019年度後期

### 少人数部門

**金4後 「演習」 森下 みさ子 (人間総合学部児童文化学科)**

### 多人数部門

**金3後 「創作文化研究Ⅱ」 やた みほ (人間総合学部児童文化学科)**

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的 (実施要領より抜粋)

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定資料とするものではない。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

#### 白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

##### [実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の9項目(項目毎の平均点の合計/45点満点)とする。
  - Q3 この授業に主体的に取り組むことができましたか。
  - Q4 この授業の内容を十分に習得できましたか。
  - Q6 教員の話は聞き取りやすかったですか。
  - Q7 教員の説明の仕方はわかりやすかったですか。
  - Q8 教科書や配付資料など、教材は適切だったと思いますか。
  - Q10 学生の質問や相談に対して、教員は適切に対応していたと思いますか。
  - Q11 教員の説明や指示は教室全体に正確に行き届いていたと思いますか。
  - Q12 この授業の目的や到達目標を十分に理解できましたか。
  - Q13 この授業の内容に興味を持つことができましたか。
- ④ 顕彰部門は、「少人数部門」(回答者数6~25名)と「多人数部門」(回答者数26名以上)の2部門とする。
- ⑤ 顕彰対象は各部門第1位の授業とし、その授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑥ 表彰授業は大学 Web サイトにて公表する。

##### [実施主体]

白百合女子大学 FD 推進委員会

2019年11月7日

学長 田畑 邦治 殿

FD 推進委員会  
委員長 波多江 洋介

「授業改善のための学生アンケート」結果の活用について(答申)

本委員会は、2019年4月22日付の諮問を受けて、「授業改善のための学生アンケート」結果の活用について慎重に審議してまいりましたが、次の結論を得ましたので答申いたします。

## FD 推進委員会で決定した委員会案

- ・授業担当教員に加えて、各学科内に設置される「学科 FD 委員会(仮称)」にその学科が開講(実施)している科目分の授業アンケートの結果を報告する。
- ・学科 FD 委員会(仮称)の構成(メンバー)は学科に委ねる。
- ・各学科 FD 委員会(仮称)は提供された結果の活用方法について FD 推進委員会へ報告することが求められる。

## 現行の方法との比較

	従来の結果の活用方法	新たな結果の活用方法(委員会案)
提供目的	授業改善のため	カリキュラム改善のため
提供範囲	担当授業の全データ	学科等が開講(実施)している科目
提供詳細	全ての設問 Q1～Q23	カリキュラム改善に活用できる設問のみ Q1、Q2、Q3、Q4、Q5①、Q5②、Q8、Q12、Q13、Q14、Q15、Q16、Q17、Q18、Q19、Q20、Q21、Q22、Q23①、Q23②
分析主体	授業担当教員	学科 FD 委員会(仮称)
学外公表	公表しない	公表しない
自己点検・ 補助金申請	活用しない	分析後の集計資料は根拠資料として活用する場 合がある(この場合は学外公表可)

以上

## 2019年度 よりよい学びのための院生懇話会報告書

2019年10月17日

白百合女子大学FD推進委員会

この「よりよい学びのための院生懇話会」は、学生より、普段考えていること、感じていること、意見などを聴き取り、大学の改善に役立てることを目的に開催しているものである。2019年度は、大学院生を対象に開催した。

## &lt;実施概要&gt;

日時：2019年10月15日（火）

12時10分～13時15分

（3時間目の授業のない一部の学生は、13時10分頃まで）

場所：めぐみ荘

参加者：大学院生8名（M発1年生4人、M発2年生2名・Mフ1年生2名）

教員2名（宮本、川口）、職員3名（大槻、遠藤、松下）

形式：院生ライフについて、昼食・茶菓をいただきながら懇話会を進行した。

司会：宮本弦先生

## &lt;内容&gt;

## 1. 研究のための環境について

- ・研究のために、日曜日に学校を開けてほしい。
- ・東門は空いているが、建物が閉まっていることがある。
- ・守衛さんに止められる。
  
- ・平日も、もう少し遅くまで研究しやすい環境がほしい。
- ・夜遅くまで、資料をみたいことがある。
- ・論文を学校に置いている。学校でやったほうがはかどる。
- ・心理検査の自分の課題に時間が必要だ。
- ・図書館のパソコンだと安全で使いやすいので、図書館で作りたい。
- ・図書館でのみ見られる資料がある。図書館が夜8時までというのは、短い。
- ・図書館が閉まるとあきらめて帰っていた。途中で食事に出ると入れない。
- ・以前は、18時までアフタヌーンミールがあった。パンの自販機もいいかも。
- ・平日も帰りが夜12時ぐらい遅くなると、守衛室のところで名前を書かないといけない。

※教員から、あまり遅くなると帰りが危なくはないか、との話があった。

## 2. 将来の構想について

- ・発達は、研究、就職（福祉施設、療育センター、スクールカウンセラー）、非常勤としての就職などが多い。
- ・まず、1～2年の社会経験を積んでから塾を経営したいと考えている。（仏文）
- ・修士で終えて仕事をする予定だ。（仏文）
- ・指導教授が、キャリア支援課では、むずかしいと言っている。
- ・非常勤で勤めた方が自分の研究がよくできるとも聞いた。

## 3. 普段の生活について

- ・バイトもしているが、課題に追われている。
- ・ほぼ毎日学校に来ている。
- ・土曜日に4時間ほど、保育園でバイトをしている。それ以外は、課題をしている。アルバイトの現場と研究がつながってよい。視野も広がる。
- ・学校内で、プチデコ（子どものフランス語教室）をしている。からだを使って学ぶ。
- ・バイトをすると勉強ができないと思い、バイトはやっていない。学業は忙しい。

## 4. 授業や、研究資料などについて

- ・学部的时候は、研究をどのようにするのかという学びがなく、研究の仕方がわからないことがある。研究の仕方の基本を学ぶ機会が欲しい。
- ・仏文には、研究法の授業がない。

## 5. TA について

- ・TAの経験は、一緒に学んでいる感じ。復習にもなる。
- ・本当は、指導する立場だが、上から指導されるより学部生にとってはよい場合もあるようだ。
- ・添削は、ドクターの先生がしている。
- ・仏文はM1年生からTAがある。

## 6. 他学科の聴講について

- ・統計の取り方について、文系は学ぶ機会があまりないので、学びたい。
  - ・児童文学とつながりが持てるといいなと思って入学した。もう少し交流の機会があるとよい。
  - ・学部の時は、共通科目があったが、院になってしまうと交流がない。視野が狭くならないように、他の科と交流をして学びを深めたい。
  - ・学内で他学科が開講しているものに聴講できる制度があるとよい。
  - ・単位はとれなくても、担当教員より聴講の許可ができれば、聴講できると聞いた。
- ※他学科科目は、指導教員と相談の上履修可能との説明が職員よりあった。



## 7. その他

- ・英語と比較してフランス語が学べる教材を作ろうとしている。(仏文)
- ・心理は、SPSSを使ってアンケートの集計を行っている。学内のパソコンには全て入っているので、使うとよい。
- ・発達専攻の方は、アクティブだと感じた。
- ・フランス語フランス文学専攻は3人で、3人でも学校で一緒にならない。上級生にも会えない。
- ・今日は、児童文学の人がいなくて残念だったが、いろいろ知ることができてよかった。

以上  
記録 川口